第2次基本計画の現状と課題の整理及び第3次基本計画策定に向けた施策の方向性の検討

I あらゆる分野における女性の活躍

基本目標2 働く場における男女共同参画の推進と職業生活と家庭生活の両立

基本施策		ー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・									アンケート調査結果
具体的施策		ルスロ1ボン1日1ボC1比上1Vル									ノン / 「町旦和4
1 女性の職業生活における活躍の 推進				実	績	目	標		評 価		問1 <u>職場における男女の地位の平等</u> ・『男性優遇』と思う:34.0%→経年で見ると低下傾向にある。
働く場における男女の均等な機会 (1) と待遇の確保と女性の活躍を推進 する取組の促進		施策の目標(指標)	単位	計画変更時 (H26年度) ①	現 状 (H30年度) ②	年次目標 (H30年度) ③	最終目標 (R2年度) ④	計画変更時 との比較 ①と②	年次目標 達成状況 (H30年度) ②と3	最終目標 達成状況 (R2年度) ②と④	「別に後起』と応り、34.0/6 / 程子で完るとは「原門にある。 (報告書7頁/概要版7頁、関連する指標: No.1~8,11,12) 間2 仕事と生活の望ましいバランス ・女性は「家庭生活又は地域活動と仕事を同じように両立させる」のが望ましい: 36.1%
(2) 職場における男女共同参画に関す る教育の促進		I あらゆる分野における女性の活躍								・男性は「家庭生活又は地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」のが望ましい:35.0% ・男女ともに『仕事優先』とするのが望ましいとの回答は、経年で見ると低下傾向にある。	
2 多様な就業ニーズを踏まえた就業		基本目標2 働く場における男女共同参画の推進と職	業生活。	と家庭生活の両	立		I	l			(報告書12~14頁/概要版11頁、関連する指標: No. 1~8, 11, 12)
支援の推進 (1) 多様な就業ニーズに対応した就業	1	重点 民間企業(従業員数が101人以上の企業)にお ける女性管理職の割合を増やす	%	12.0 (H27年度)	11.5 (H30年度)	15.0 (H30年度)	15. 0 (R2年度)	1	×	×	問2-2 <u>仕事と生活のバランス(自分自身の状況)</u> ・男女ともに『仕事優先』との回答は、低下傾向にある。 ・『仕事優先』との回答は、男性(54.2%)が女性(26.1%)を28.1ポイント上回っている。
(2) 接営の主体となる女性の育成・支援	2	新 重点 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画 を策定し、女性活躍の推進に取り組む企業 (従業員数が300人以下の企業)を増やす	社	_	62 (H30年度)	40 (H30年度)	50 (R2年度)	_	0	0	(報告書16・17頁/観要版12頁、関連する指標: No. 1~8, 11, 12) 問4 <u>家庭における役割分担</u> ・『夫が中心』との回答が高いのは「収入を得ること」のみ
3 農林水産業や商工業などの自営業 における男女共同参画の推進	3	民間企業の男性の育児休業取得率を上げる	%	3.8 (H25年度)	4.9 (H30年度)	9.8 (H30年度)	13.0 (R2年度)	1	×	×	 それ以外の役割は圧倒的に『妻が中心』との回答が高いが、経年で見ると低下傾向にある。 (報告書22・23頁/板要版13・14頁、関連する指標: No. 1~8, 11, 12) 目5 1日の生活時間
(1) 自営業における男女共同参画の推 進のための取組の実施	4	男女共同参画に積極的に取り組む事業者の数を 増やす (広島市男女共同参画推進事業者表彰の表彰事業者数)	事業者	44 (H26年度)	53 (H30年度)	60 (H30年度)	60 (R2年度)	1	×	×	・「仕事・学業」: 男性が女性より平日で約2時間長い ・「家事」: 女性が平日、休日ともに約3時間に対し、男性は1時間前後 ・「子育て」: 女性が平日、休日ともに1時間前後に対し、男性は平日で10分、休日で39分 (報告書26~37頁/複要版15頁、関連する指標: № 1~8,11,12)
4 女性の参画が少ない分野における 男女共同参画の推進	5	職業生活と家庭生活の両立に取り組む市内の 民間事業所の数を増やす (仕事と家庭の両立支援企業登録制度への登録事業所数)	事業所	406 (H26年度)	521 (H30年度)	470 (H30年度)	470 (R2年度)	1	0	0	問7 <u>男性の育児や介護などに関する制度の利用が少ない理由</u> ・「職場での理解が得られないから」:57.3%→経年で見ると低下傾向
(1) 女性の参画の拡大 5 職業生活と家庭生活の両立に向け	6	新 働き方を工夫して、労働時間の削減に取り組む人の割合を増やす	%	_	52.6 (H30年度)	49.0 (H30年度)	50.0 (R2年度)	_	0	0	 「子育てや介護・看護は女性の役割であるという意識が強いから」: 55.1%→経年で見ると上昇傾向 「仕事が忙しく、利用する暇がないから」: 52.2%→経年で見ると上昇傾向 (報告書45・46頁/概要版16頁、関連する指標: №.1~8,11,12)
た職場環境の整備 (1) 育児・介護休業制度等の定着と利 用促進	7	男性が家事・子育て・介護に関わる時間を増や す(年齢を問わず結婚している男性の平日1日当たりの家 事・子育て・介護に関わる時間)	分	40 (H26年度)	45 (H30年度)	72 (H30年度)	90 (R2年度)	1	×	×	問8 <u>男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと</u> ・「子育てのための休暇・休業を利用しやすい職場環境」: 56.0% ・「介護・看護のための休暇・休業を利用しやすい職場環境」: 51.4% ・「保育施設やサービス (一時預かり、病児保育など)の充実]: 50.9%
(2) 市役所における職業生活と家庭生活の両立の推進	8	市の男性職員の育児休業取得率を上げる	%	3.9 (H26年度)	7.3 (H30年度)	13.0以上 (H30年度)	13.0以上 (H31年度)	1	×	×	(報告書4・48頁/概要版17頁、関連する指標: № 1~12) 間10 <u>仕事と仕事以外の生活の両立における不安や悩み</u> ・「自分の自由な時間がとれない」: 25.8%→経年で見ると低下傾向
6 男性にとっての男女共同参画の 意義についての理解の促進	9	保育園等入園待機児童の解消を図る	٨	66 (H27. 4. 1)	36 (H31. 4. 1)	(H31. 4. 1)	0 (H28. 4. 1以降)	1	×	×	・「健康管理が難しい」: 18.2% ・「休日が少ない、又は休暇制度があってもとれない」: 14.4%→経年で見ると低下傾向 (報告書54・55頁/概要版18頁、関連する指標: No.1~12)
(1) 男性への意識啓発等の推進 (2) 男性の家庭生活への参画を促す取組の推進	10	放課後児童クラブ待機児童の解消を図る	٨	238 (H27. 5. 1)	85 (R1. 5. 1)	(R1. 5. 1)	0 (H28. 5. 1以降)	1	×	×	問12 <u>女性が働くことに関する考え方</u> ・「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」: 39. 9%→平成26年度調査から7.1ポイント減少 ・「子どもができても、ずっと働き続ける方がよい」: 36.9%→平成26年度調査から9.7ポイント増加
7 子育て支援策の充実	11	新 女性求職者の就職率を高める (ハローワークにおける女性の新規求職者(25歳~44歳)の うち就職した人の割合)	%	28.3 (H26年度)	25. 3 (H30年度)	29. 5 (H30年度)	30.0 (R2年度)	Ţ	×	×	・女性は「子どもができても、ずっと働き続ける方がよい」、男性は「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」が最も高い。 (報告書65~67頁/概要版19頁、関連する指標: No. 1~8, 11, 12)
(1) 保育サービス等の充実	12	「家族経営協定」締結農家数を増やす	戸	44 (H27. 4. 1)	47 (H31. 4. 1)	50 (H31. 4. 1)			×	×	問13 <u>女性の就労継続、再就職に必要なこと</u> ・「保育施設やサービス(一時預かり、病児保育など)の充実」: 57.7% ・「家族や配偶者の理解や同意」: 55.3% ・「子育てのための休暇・休業を取りやすい環境整備」: 55.3%
8 介護支援策の充実 (1) 介護支援事業の充実	【説明】 12の指標のうち、第2次計画変更時との比較では8つが「↑」、2つが「↓」の傾向になった。 年次目標の達成状況は、3つが「○」、9つが「×」になった。										
											問15 <u>管理職への昇格希望</u> ・ 「希望しない」: 女性63.3% (男性34.9%) (報告書74・75頁/概要版22頁、関連する指標: No.1,2)
											問15 - 2 <u>管理職への昇格を希望しない理由</u> ・仕事と家庭の両立が困難: 女性24.0% (男性8.8%) ・自分の能力に自信がない: 女性24.0% (男性16.3%) (報告書76・77頁/概要版23頁、関連する指標: No.1~12)
		・『仕事									優先』との考えは男女とも減少傾向にあるが、望ましいバランスと実際の働き方にギャップがある。
	おける									活・地域生活を優先させたいと考えている男性が少しずつ増えているが、収入を得ること以外の家庭に 割(掃除・洗濯、食事のしたく、子育てなど)は圧倒的に女性が中心に担っている状況がある。	
									女性が	が働くことに対する考え方も、男性と女性でギャップがある。	
	管理職への 多くいる。									への昇格を希望しない女性は過半数を超え、その理由として仕事と家庭の両立の難しさを挙げる女性が。	